

2020年8月26日

岡山市教育委員会
教育長 菅野和良 様

岡山市の学校給食をみんなで良くする会
会長 岡村 真沙子

学校給食センター移転建て替えと 山南学園の給食運営についての申し入れ

日頃より、岡山市の教育の発展のために尽力されている貴職に心より敬意を表します。

さて、昨年12月の市議会子ども・文教委員会で、現在 2500 食分を調理している岡山学校給食センターの老朽化に伴い、7000 食分が調理可能なセンターへと移転建替する計画が示され、すでに進められています。

岡山市は、赤田に学校給食センターを造ったものの、やはり子どもたちにとって学校内に調理場がある自校調理方式が望ましいと整備を進めてきました。自校調理方式を多く採用し、栄養士と調理員を配置して小・中学校で完全給食を実施してきた岡山市の学校給食は、全国に先駆けた取り組みであり、私たち岡山市民の誇りでもあります。

学校給食センターの老朽化は衛生管理上問題があり、対応は必要ですが、少子化の中で7000食にまで拡大して調理・配送することが「子どもたちに最善の学校給食」なのでしょうか。12000食規模の倉敷市の学校給食センターでは“喫食2時間前調理”は守られておらず、埼玉県八潮市の7000食規模の学校給食センターで起こった食中毒は、大規模調理場のリスクを露呈しました。

他方、自校調理方式では、給食室から校舎内に料理の匂いが漂い、栄養士や調理員の作る人の顔がわかり、子どもたちとの関わりで食教育も充実させていくことが出来ています。さらに、広島市の土砂災害時や西日本豪雨時の岡山市平島小学校などで、迅速に学校給食が再開できています。奈良市では、第三者委員会を設置して4～5年かけて議論した上で自校調理方式を選択しており、自校調理方式の方が、リスクが低く子どもたちにとって最善の給食を提供できる体制であることは明らかです。

また、2022年4月に開校予定の岡山県下初の義務教育学校「山南学園」においても、これまで小中学校で完全給食を実施してきた岡山市として全国に誇れる学校としていくために、9年間の食育のモデル校としてください。そのためには、岡山市直営で栄養教諭・給食調理員の配置が必要と考えます。

自校調理方式による安全安心な学校給食を提供するのは教育委員会の責務です。市の大規模公共事業をやめて、岡山市の未来を担う子どもたちのために、市の財政を使ってください。

つきましては、下記のとおり申し入れますので、誠実な対応をお願い申し上げます。

記

1. 赤田学校給食センターの建て替えについては、「少子化」「衛生管理」などの問題とともに、子どもへの「食育」がより豊かに広がるよう、現在赤田学校給食センターから配送している5校に自校調理場を設置して下さい。
2. 「少子化」「衛生管理」「食育の充実」といった課題を解決するために、少なくとも、現在給食調理場を有する学校は自校調理方式を継続するとともに、学校給食センターは順次廃止し、各学校に給食調理場を設置して、全校自校調理方式へと転換して下さい。
3. 山南学園の学校給食は、必ず岡山市による直営にしてください。

以上